

昔の人たちは、「学ぶ」ということをとても上手にこの漢字で表現してくれました。
 下半分は、そのまま子どもです。子どもがどのような場で学ぶのかを上半分で表しています。
 上半分の真ん中にある二つの「メ」は、**人と人が交わる**ことを意味しています。
 そして、この「メ」を囲むような両サイドは、大人の手です。
 つまり、子どもは**大人の手を守られて（安心感をもって）**、人と交わるような場でこそ学ぶのだということになります。

牧の台小学校を、ぜひ学びの場にしていきましょう。

具体的手だて

① どの子にとっても安心でき、居場所のある学校をつくる

安心でき、居場所のある学校とは・・・	
先生に認められる	クラスの友だちに認められる
失敗しても笑われない	ホッとできる 素の自分を出せる
悪口を言われない	苦手なことも得意なことも知られてよい
笑顔でいられる	独りぼっちじゃない
相談できる人がいる	先生が信頼できる
何でも言える安らかな雰囲気	よりよい自分になろうとする（向上心）



教師が率先して「大丈夫、心配しなくてよい」「みんなで考えよう」「みんなで賢くなろう」という空気をつくろう

先生が【手立て】をうたないと、子どもは変わりません

◎全てのクラスで実行しよう

「枠」づくりと「関係」づくり

ルールの確立
 対人関係
 集団生活をする際のルールの定着

リレーションの確立
 仲間とのつながり よりよい関係づくり

子どもたちと一緒に
 ドキドキ
 ワクワクする
 学年・学級づくりを

子どもたちと一緒に
 ドキドキ
 ワクワクする
 学習づくりを

子どもとの時間を大切に、子どもとつながろう
 子どもが気持ちよく1日のスタートができるように先生自身が環境整備をしよう
 子どもたちどうしを関わらせる手立てをたくさん実践しよう

子どもと話そう・・・1日1回は全員に声をかけよう

子どもと話すときは顔を見て 時には子どもと遊ぶ

各教室を美しく・・・朝、子どもが登校する前に窓を開け、空気を入れ替える

夕、机が整然とならんでいるか、横や上に物はないか
 黒板は美しいか、ゴミが落ちていないか

下足室・トイレを美しく・・・学年内で曜日を定め、整頓や美化に努めよう

くつが整頓されていると、朝、気持ちよいスタートがきれる

授業時間を守る・・・チャイムで始めるだけでなく、チャイムで終わる

子どもに守らせるより、先生が実行しよう

子どもたちを関わらせよう・・・関わり方を手助けしよう 最初はできなくて当然

みんなの前でよい関わりを紹介しよう 変化をほめよう



② 職員の主体性・協働性が発揮できる職場をつくる

子どもたちは、よく見えています 元気な姿・顔で子どもたちと接するために

◆ゆとりをもって生活しよう 楽しみながら生活しよう

- 先生たちが、**自分の生活を楽しむことが一番**です。
- 早く帰る曜日や日を設定してみよう。
- 仕事の話ばかりではなく、趣味や子育て…自分の生活についても同僚と話そう。
- 子ども達の前では、おせっかいな人（子どもを伸ばすための関わり）を演じよう。

◆自己研鑽をしよう（自信をつけよう）

- がんばっている姿は、まわりの刺激になります。（恥ずかしがらずにみんなの前で）
- 教育書を読もう（ネット検索で終わりではなく、本を買って、本屋で買って読もう）
- 子どもだけでなく、自分にもPDCAサイクルを（常に、分析・評価・修正を）
- 自分磨きは、子どもに還元しています。魅力ある先生になろう。

◆会議時間を短縮しよう

- 提案文書は、部会・学年等で検討、討議するところ・連絡などを明確に。
- 職員会議の時間を減らす工夫をしよう。

◆課題や問題は学年・部会などチームで相談し、解決を図ろう

- 一人で悩まず、相談しよう。
- 自分の意見をもって、話し合いに参加しよう。
- 先生は担任だけじゃない。様々な立場の先生と連携しよう。
学級の荒れは、専科の先生、養護教諭や調理員さんたちにも、わかります。
校内を巡回する校務員さん、ゴミやトイレの使い方、わかります。
- 職員室や事務室、給食休憩室がほっと安心できる場になるようにしよう。

◆管理職に、知らせよう

- クラスの課題、保護者からの相談、ケガ、登校渋りなど報告・連絡・相談を。
- とくに、いじめ事案・首から上の怪我はすぐに報告を。初期対応が肝心です。
- 個人的な相談にものります。
- 授業を見に行き、アドバイスします。（でも、考えるのは先生です。）
- 面談をします。（目標や途中経過。成果と課題。次への具体的手立て…）

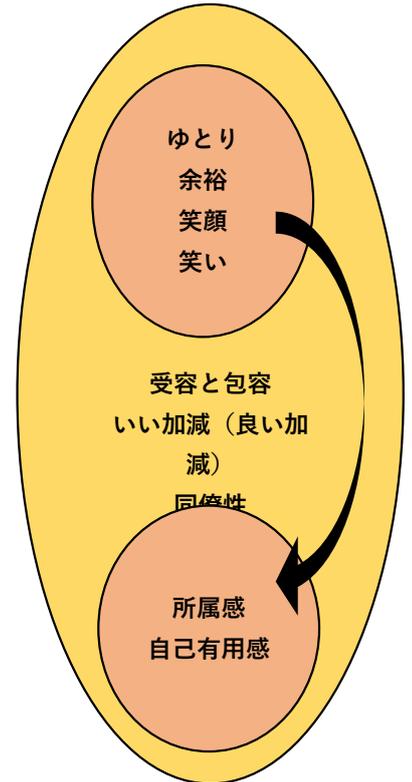
③ 保護者や地域から信頼される学校をつくる

◆保護者との連携を積極的にしよう

- 日頃から連携をとるための工夫をしよう
学級通信 電話連絡 連絡帳への返事など
クラスの様子（プラス面、マイナス面）を知らせることで、保護者の方の安心につながります。
- 首から上の怪我・アレルギー、病院にかかる怪我は必ずすぐに保護者へ連絡をする。
養護教諭→管理職→保護者
- 「困った子ども」ではなく、「子どもが困っている」と考え、保護者に相談するような気持ちで対応を。
- 参観日は自分を知ってもらおうチャンス（子どもも親も楽しませよう）（懇談では、成長を伝えよう）
子どもの様子と先生の行動を見られます。自分もアピールできる授業を。
発表会ではなく、授業をしましょ。 (学年でそろえなくても可)

◆地域の活動に参加しよう

- 年に1回は、参加しよう。
体育祭・文化祭・夏まつりなど



子どもが、家に負のエネルギーをもって帰らないように、帰るまでに対応。もち帰る場合は、電話または家庭訪問を実施。
→「後回し」は、いいことなし。
→学年への連絡。
管理職への連絡。
黙っていて、いいことなし。

子どもとの信頼関係
保護者との信頼関係
地域との信頼関係を
→無理もお願いできるように。